

高知大学大学院教職実践高度化専攻<教職大学院> 令和4年度派遣候補教員募集

高知県では、本県の教育課題を解決していくためのリーダー教員を養成することを目的として、高知大学大学院<教職大学院>への現職教員派遣研修を実施しています。

高知大学大学院<教職大学院>への派遣研修は、

***事前研修(1年間)+大学院修学(2年間)の「3年プログラム研修」として実施します。**

令和3年度(事前研修、大学院受験)

《事前研修》1年間

派遣候補教員として選考された教員は、派遣前の1年間、在籍校等で勤務しながら、実習コーディネーター(高知県教育委員会事務局高知大学連携担当)による指導のもとで、本県の教育課題解決に資するための研究テーマの設定、研究計画の立案、研究資料の収集、研究テーマに基づく実践等を行い、大学院修学に備えます。

令和4・5年度(大学院修学)

《大学院修学》2年間

大学院のカリキュラムに沿った講義等の受講及び研究テーマに基づく研究・実習(在籍校等において、1年次:20日間 2年次:30日間実施)等を行います。

●派遣中の服務・給与等…長期研修の扱い

- ・身分…教員の身分を有する
- ・給与…全額支給(通勤手当は、大学を公署として支給)
- ・旅費…赴任旅費のみ支給(実習等に係る交通費は自己負担)

※その他、大学院受審料、研究費等は自己負担

●入學料及び授業料の負担…自己負担

※予算の範囲内で、県が入學料等を一部負担することを予定しています。

※派遣研修修了後、5年に達するまでの期間内に離職した場合、県が負担した研修費用を返還していただくことになります。

派遣募集分野

(注)高知大学教職大学院は令和4年度に組織改編を予定しており、現在のコース(学校運営コース、教育実践コース、特別支援教育コース)からコース名称及び該当分野等が変更になる可能性があります。

そのため、令和4年度派遣者については、下記の研究分野への派遣候補者として募集・決定します。

※正式なコース名称等は令和3年度中に大学側で決定し、派遣者は当該研究分野に対応するコースに派遣されることになります。

研究分野		校種	派遣候補者数
【学校運営】※学校組織マネジメント		小学校	1名
		中学校	1名
【生徒指導】		小学校	1名
【教科等指導】	算数	小学校	1名
	国語	中学校	1名
	道徳	中学校	1名
	英語、数学、国語、 社会、理科のいずれか	高等学校	1名
【特別支援教育】		小学校	1名
		高等学校	1名
		特別支援学校	1名

応募資格

- (1)現在、本県の公立小学校・中学校・義務教育学校・高等学校及び特別支援学校に勤務する教員又は、教育委員会事務局その他の教育関係機関に勤務する教員籍の職員であって、一種免許状を有する者。
- (2)原則5年以上(令和3年3月31日現在)学校の勤務経験を有する者。
- (3)大学院修了後も、引き続いて本県の教育公務員として勤務する意思を有する者で、本県の教育課題解決の中核的役割及び指導的役割を果たす者。
- (4)心身ともに健全で、長期研修に耐え得る者。

※詳細は、「高知県教育公務員大学院派遣要綱」及び「高知大学大学院<教職大学院>3年プログラム研修要項」を参照してください。

手続

◆県教育委員会への所定書類の提出 → ◆県教育委員会による面接・選考 → ◆派遣候補教員決定
※市町村(学校組合)立小・中・義務教育学校教員は学校長及び市町村(学校組合)教育長の推薦書、県立学校教員は学校長の推薦書、教育委員会事務局その他の教育機関の職員は所属長の推薦書が必要です。
※手続の詳細は、令和2年12月2日付け2高教政第639号により各市町村(学校組合)教育委員会、各県立学校、教育委員会事務局に通知しています。

参考

※現在のコース編成における各コースの概要です。R4年度にはコース名称等が変更になる可能性があります。

- 【学校運営コース】学校運営に通じ、PDCAサイクルが機能する仕組みを設けるなど学校全体としての組織的な取組をリードすることができる高度な実践的指導力を育成し、学校の教育活動を効果的にマネジメントし、実践できる力量を備えた中核的中堅教員を養成する。
- 【教育実践コース】児童生徒理解と多様な教育方法に通じ、学級経営や授業研究を組織・リードして、全ての子どもたちに質の高い学びを保証することができる高度な実践的指導力を育成し、学級経営や学習指導に関する高い専門性と実践力を備えた中核教員を養成する。
- 【特別支援教育コース】個別の障害像に即した実態把握に基づき個別の指導計画を立案し、それを実践したのちに、適切な教育評価により個別事例の臨床像に対する指導の効果を検証する能力を有する中核教員を養成する。

◆高知大学教職大学院派遣については、以下のHPも参考にしてください。
◀高知大学教職大学院▶<http://akebono.ei.kochi-u.ac.jp/kyosyokuin/>

派遣修了者の声(令和元年度修了・第1期生)



四万十町立大正中学校 教諭 平林香里 ◀教育実践コース(道徳)修了▶

大学院入学当初は不安で一杯でしたが、子ども達の為、自身の成長の為と決意して、2年間の大学院生活を送りました。高知大学教職大学院では、「理論と実践の融合」という言葉のとおり、自身の実践にどのような理論的背景があるか学び、理論に基づいた授業づくりや実践的研究を行うことができました。学校現場では、日々の忙しさに追われ視野が狭くなっていたこと、自身の経験や感覚に頼った指導になっていたということに気がかされました。また、異校種、異年齢の仲間と出会い、様々な視点で俯瞰的に学校を見ることができるようになったことも良い経験です。教職大学院での学びは、自分自身にとって教師生活の貴重な財産となっています。



高知市立潮江小学校 主幹教諭 坂本興彦 ◀学校運営コース修了▶

教職大学院の魅力は、教育の世界的潮流や理論を学び、協同的な学びを通して院生の仲間とつながり、それまでの学校での業務を大局的で学術的な視点から捉え直せたことにあります。その結果、明瞭になった学校組織や日常業務についての課題意識をもとに行った実践研究では、経営計画の適切な作成や効果的な活用に必要ないくつかのマネジメント・スキルを解明し、その習得のための試験的なOJTシステムを構築することによって高知県の教育課題解決を目指しました。今年度は自らが主幹教諭となり、このOJTシステムを運用・改善すること、小規模校でも運用可能とすること、を視野に実践しています。学び、見つけ直し、改善方策を考え、考えたことを実践できる、そんな可能性にあふれたところが教職大学院です。



高知県教育委員会高等学校課 指導主事 畑山ふみ ◀特別支援教育コース修了▶

教職大学院では、「特別支援教育における自己理解と言語的表現の支援」をテーマに、生徒が「自分の思いや考えを言葉にすること」が学校適応・社会適応につながるのではないかと考え研究に取り組みました。生徒の困り感や不適応には必ず理由があり、その背景や要因を探り要因に合った支援を行うこと、そして、その裏付けとなる理論の重要性について深く学びました。大学の教授陣の専門的な講義からはもちろん、校種を越えた仲間との協議からも、これまでとは異なる視点を得るとともに、校種間連携や指導の系統性の必要性を再認識することができました。教職大学院での2年間は、これまでの実践を振り返り学び直すことのできる大変貴重な時間でした。現在は、教職大学院で学んだ「理論と実践の融合」を念頭に置き、学校への支援等に当たっています。今後も大学院での学びを生かしながら、また、現在の職場で得た新たな視点や考えも大切にし、本県の教育課題解決に向けて尽力していきたいと思えます。

修学の様子



講義時の協議



院生室の様子



血鉢ゼミ(研究発表)



実習時の授業実践

問合せ先

高知県教育委員会事務局教育政策課 高知大学連携担当 三好 電話:088-821-4726